

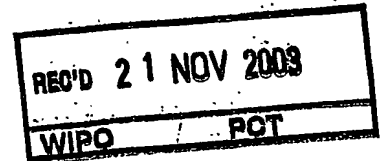
日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

02.10.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application: 2002年10月23日



出 願 番 号  
Application Number: 特願2002-307888  
[ST. 10/C]: [JP2002-307888]

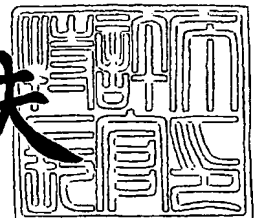
出 願 人  
Applicant(s): 株式会社瑞光

**PRIORITY  
DOCUMENT**  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2003年11月 7日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



BEST AVAILABLE COPY

【書類名】 特許願

【整理番号】 30767

【提出日】 平成14年10月23日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A61F 13/15  
A61F 5/44

【発明の名称】 使い捨て着用物品

【請求項の数】 10

【発明者】

    【住所又は居所】 大阪府摂津市南別府町15番21号 株式会社瑞光内

    【氏名】 倉田 修平

【特許出願人】

    【識別番号】 591040708

    【住所又は居所】 大阪府摂津市南別府町15番21号

    【氏名又は名称】 株式会社瑞光

【代理人】

    【識別番号】 100067828

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 小谷 悦司

【選任した代理人】

    【識別番号】 100075409

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 植木 久一

【選任した代理人】

    【識別番号】 100097054

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 麻野 義夫

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 012472

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9807514

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 使い捨て着用物品

【特許請求の範囲】

【請求項1】 吸収体の裏面側における幅方向の略中央位置に、所定の長さで略直線状に延在する第1弾性部材が添着されていることを特徴とする使い捨て着用物品。

【請求項2】 上記第1弾性部材は、直線近接部分の前端から前広がり状に前方に延在するように添着されている請求項1記載の使い捨て着用物品。

【請求項3】 上記第1弾性部材は、直線近接部分の後端から後広がり状に後方に延在するように添着されている請求項1または2に記載の使い捨て着用物品。

【請求項4】 上記吸収体の裏面側における幅方向の両側位置に、所定の長さで略直線状に延在する第2弾性部材が添着されている請求項1から3のいずれか1項に記載の使い捨て着用物品。

【請求項5】 上記吸収体は、バックシートとトップシートと吸収性コアとを有して、上記第1弾性部材または／および第2弾性部材は、2枚重ねのバックシートの間に添設されている請求項1～4のいずれか1項に記載の使い捨て着用物品。

【請求項6】 上記吸収体の両側に立ち上がりフラップが設けられている請求項1～5のいずれか1項に記載の使い捨て着用物品。

【請求項7】 前腹部と後背部との間の股部両側にレッグ用開口部が形成されてなる外装シートが設けられ、上記吸収体は、外装シートの肌面側の股部に取付けられている請求項1～6のいずれか1項に記載の使い捨て着用物品。

【請求項8】 肌面側に吸収体が取付けられた外装シートの幅方向の略中央位置に、長さ方向に所定の長さで略直線状に延在する第1弾性部材が添着されていることを特徴とする使い捨て着用物品。

【請求項9】 上記第1弾性部材は、直線近接部分の前端から前広がり状に前方に延在するように添着されている請求項8に記載の使い捨て着用物品。

【請求項10】 上記第1弾性部材は、直線近接部分の後端から後広がり状

に後方に延在するように添着されている請求項8または9に記載の使い捨て着用物品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、使い捨て着用物品に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、使い捨てパンツタイプの体液吸収性着用物品としては、幼児用のパンツ型おむつやトレーニングパンツ、失禁パンツ、身体障害女性用の生理処理パンツなどがあり、かかる使い捨て着用物品では、外装シートの肌面側に吸収体を取付けている（例えば、特許文献1参照）。

【0003】

【特許文献1】

特開平9-56747号公報（第2-3頁、図1）

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

上記のような使い捨て着用物品の内、特に生理処理パンツでは、股間全体に対する吸収体全体の密着性が強く要望されている。

【0005】

本発明は、上記要望に応えるためになされたもので、股間全体に対する吸収体全体の密着性が良好な使い捨て着用物品を提供することを課題とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するために、本発明の請求項1は、吸収体の裏面側における幅方向の略中央位置に、所定の長さで略直線状に延在する第1弾性部材が添着されていることを特徴とする使い捨て着用物品を提供するものである。

【0007】

請求項1によれば、吸収体の裏面側の略中央位置に、略直線状の第1弾性部材を添着することにより、この第1弾性部材の収縮作用によって、吸収体の肌面側の中央部が所定の長さで盛り上がるようになるから、吸収体の股間中央部に対する密着性が良好になる。

【0008】

請求項2のように、上記第1弾性部材は、直線近接部分の前端から前広がり状に前方に延在するように添着されていると、前広がり状の第1弾性部材の収縮作用によって、吸収体の肌面側の前部が前広がり状で盛り上がるようになるから、股間前部に対する密着性が良好になる。

【0009】

請求項3のように、上記第1弾性部材は、直線近接部分の後端から後広がり状に後方に延在するように添着されていると、後広がり状の第1弾性部材の収縮作用によって、吸収体の肌面側の後部が後広がり状で盛り上がるようになるから、股間後部（臀部の谷間）に対する密着性が良好になる。

【0010】

請求項4のように、上記吸収体の裏面側における幅方向の両側位置に、所定の長さで略直線状に延在する第2弾性部材が添着されていると、第1、第2弾性部材の相互収縮作用によって、吸収体の肌面側の中央部が所定の長さでより高く盛り上がるようになる。

【0011】

請求項5のように、上記吸収体は、バックシートとトップシートと吸収性コアとを有して、上記第1部材または／および第2弾性部材は、2枚重ねのバックシートの間に添設されているのが好ましい。

【0012】

請求項6のように、上記吸収体の両側に立ち上がりフラップが設けられているのが好ましい。

【0013】

請求項7のように、前腹部と後背部との間の股部両側にレッグ用開口部が形成されてなる外装シートが設けられ、上記吸収体は、外装シートの肌面側の股部に

取付けられているのが好ましい。

【0014】

なお、請求項1～7の吸収体は、吸収体の無い外装シート（パンツやおむつなど）に交換可能に取付けたり、使い捨てパンツタイプの吸収体の上に交換可能に重ね置きして取付けたりすることができる。

【0015】

本発明の請求項8は、肌面側に吸収体が取付けられた外装シートの幅方向の略中央位置に、長さ方向に所定の長さで略直線状に延在する第1弾性部材が添着されていることを特徴とする使い捨て着用物品を提供するものである。

【0016】

請求項8によれば、使い捨てパンツタイプの外装シートの略中央位置に、略直線状の第1弾性部材を添着することにより、この第1弾性部材の収縮作用によって、外装シートの肌面側の中央部が所定の長さで盛り上がるようになり、これに伴って吸収体の肌面側の中央部も所定の長さで盛り上がるようになるから、吸収体の股間中央部に対する密着性が良好になる。

【0017】

請求項9のように、上記第1弾性部材は、直線近接部分の前端から前広がり状に前方に延在するように添着されていると、前広がり状の第1弾性部材の収縮作用によって、外装シートの肌面側の前部が前広がり状で盛り上がるようになり、これに伴って吸収体の肌面側の前部が前広がり状で盛り上がるようになるから、股間前部に対する密着性が良好になる。

【0018】

請求項10のように、上記第1弾性部材は、直線近接部分の後端から後広がり湾曲状に後方に延在するように添着されていると、後広がり状の第1弾性部材の収縮作用によって、外装シートの肌面側の後部が後広がり状で盛り上がるようになり、これに伴って吸収体の肌面側の後部が後広がり状で盛り上がるようになるから、股間後部（臀部の谷間）に対する密着性が良好になる。

【0019】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図面を参照して詳細に説明する。

#### 【0020】

図1～図3に示すように、使い捨て着用物品である吸収体1は、2枚のバックシート2（A，B）と吸収性コア3とトップシート4と左右一对の立ち上がりフラップ5とで基本構成されている。

#### 【0021】

上記バックシート2（A，B）は、少なくとも一方が不透液性素材で構成され、不透液性素材としては合成樹脂製フィルムや撥水性不織布、透液性素材としては不織布を好適に用いることができ、2枚重ねで接着するバックシート2（A，B）の間に、後述する第1弾性部材9が添設されている。なお、吸収体1は、バックシート2（A，B）が不透液性素材でなくても、吸収性コア3の下に別のシートである不透液性素材が配置されていても良い。

#### 【0022】

上記吸収性コア3は、天然パルプ繊維、合成樹脂繊維および／または高吸水性樹脂材料などで構成されている。

#### 【0023】

上記トップシート4は、透液性不織布で構成されている。

#### 【0024】

上記左右一对の立ち上がりフラップ5は、撥水性または防水性を有する合成樹脂製不織布で構成されて、自由端部5aには、前後方向に延びるフラップ用弾性部材6が伸長状態で接着されている。

#### 【0025】

この弾性部材6の材質としては、ポリウレタン、天然ゴム、フィルムなどが利用でき、弾性部材6の形状は、糸状、リボン状などが利用でき、1本使用に限らず複数本使用であっても良い。なお、後述する第1、第2弾性部材9，10などの各弾性部材も同様である。

#### 【0026】

そして、上側のバックシート2（A）の上に吸収性コア3を接着するとともに、この吸収性コア3をくるむようにして上側のバックシート2（A）の上にトッ



プシート4を接着して、その両側部分に立ち上がりフラップ5の基端部5bを接着することにより、吸収体1が完成するようになる。

#### 【0027】

上記2枚重ねで接着するバックシート2（A，B）の間には、第1弾性部材9が伸長状態で添設されている。

#### 【0028】

第1弾性部材9は、吸収体1の幅方向の略中央位置で、一定の間隔H1内で、所定の長さH2で近接して延在するように左右一対で添設されて、近接部分9aを形成している。上記間隔H1としては、5～50mm程度が適当であり、上記長さH2としては、100～350mm（幼児用は50～250mm）程度が適当である。

#### 【0029】

図1に示したように、第1弾性部材9は、近接部分9aの前端から前広がりで前方Fに延在するように添着されて、前広がり部分9bを形成している。また、第1弾性部材9は、近接部分9aの後端から後広がりで後方Bに延在するように添着されて、後広がり部分9cを形成している。この前広がり部分9bと後広がり部分9cは、略V字状であっても湾曲状であっても良い。

#### 【0030】

なお、図1の右下部分および図2（c）（d）に示したように、吸収体1を伸ばした状態で、吸収体1の幅方向の両側位置に、所定の長さH3で略直線状に延在するように、左右一対の第2弾性部材10を伸長状態で添着することもできる。

#### 【0031】

上記長さH3としては、第1弾性部材9の前広がり状部分9bと後広がり状部分9cとにクロスしない長さが適当であるが、クロスするように構成されていても良い。

#### 【0032】

上記のように構成した吸収体1によれば、吸収体1の裏面側の略中央位置に、略直線状の第1弾性部材9を添着して近接部分9aを形成したものであるから、

図3 (a) に示したように、この近接部分9 aの第1弾性部材9の収縮作用によって、吸収体1の肌面側の中央部が所定の長さH2で山形に盛り上がるようになるので、吸収体1の股間中央部に対する密着性が良好になる。

#### 【0033】

また、第1弾性部材9は、直線状部分の後端から後広がり状に後方に延在するように添着して後広がり部分9 cを形成したものであるから、この後広がり部分9 cの第1弾性部材9の収縮作用によって、吸収体1の肌面側の後部が後広がり状で盛り上がるようになるので、股間後部（臀部の谷間）に対する密着性が良好になる。

#### 【0034】

さらに、第1弾性部材9は、近接部分9 aの前端から前広がり状に前方に延在するように添着して前広がり部分9 bを形成したものであるから、この前広がり部分9 bの第1弾性部材9の収縮作用によって、吸収体1の肌面側の前部が前広がり状で盛り上がるようになっても良く、股間前部に対する密着性が良好になる。

この結果、股間全体に対する吸収体1全体の密着性が良好になり、体液吸収がより迅速になって横漏れするおそれが全くなくなる。

#### 【0035】

また、吸収体1の裏面側における幅方向の両側位置に、所定の長さH3で略直線状に延在する第2弾性部材10を添着すると、第1、第2弾性部材9、10の相互収縮作用によって、吸収体1の肌面側の中央部が所定の長さH2でより高く盛り上がるようになるから、股間中央部に対する密着性がより良好になる。

#### 【0036】

なお、第1弾性部材9は、近接部分9 aと前広がり部分9 bと後広がり部分9 cとの組み合わせが最適であるが、近接部分9 aだけであっても良く、また、近接部分9 aと前広がり部分9 bとの組み合わせ、近接部分9 aと後広がり部分9 cとの組み合わせであっても良い。

#### 【0037】

さらに、第1、第2弾性部材9、10は、吸収体1の吸収性コア3と1枚のバックシート2との間に添設することもできるが、2枚重ねのバックシート2（A

, B) の間に添設すると、ラインによる生産が容易に行える。

#### 【0038】

さらにまた、吸収体1の両側に立ち上がりフラップ5を設けると、吸収体1の両側からの横漏れを確実に防止することができる。

#### 【0039】

上記吸収体1は、吸収体1の無い外装シート（パンツやおむつなど）に交換可能に取付けたり、使い捨てパンツタイプの吸収体の上に交換可能に重ね置きして取付けたりすることができるが、吸収体1の一部を盛り上げる手法を使い捨てパンツや生理用品（以下、単にパンツという。）に用いた例を図4～図11を用いて説明する。

#### 【0040】

すなわち、図4および図10に示すように、パンツ15の外装シート16は、例えば通気性不織布で構成されて、外面側シート16Aと肌面側シート16Bとは、パンツの外形状に形成されて、前腹部Pと後背部Qとの間の股部R両側にレッグ開口部Sが形成されている。なお、外面側シート16Aおよび／または肌面側シート16Bは、通気性不織布であることが好ましい。

#### 【0041】

上記2枚重ねで接着する外面側シート16Aと肌面側シート16Bとの間には、前後端部にウエスト用弾性部材17が伸長状態で添設されるとともに、レッグ開口部Sの周囲にはレッグ用弾性部材18が伸長状態で添設されている。

#### 【0042】

上記吸収体1は、肌面側シート16Bの股部Rに接着されている。

#### 【0043】

そして、肌面側シート16Bを内側にして外装シート16を股部Rで折り重ね、両サイド部16aを接合することにより、パンツ15が完成する。

#### 【0044】

上記のように構成したパンツ15であっても、上記吸収体1で説明したのと同様に、股間全体に対する吸収体1全体の密着性が良好になり、体液吸収がより迅速になって横漏れするおそれが全くなくなる。

## 【0045】

図5は、レッグ用弾性部材8の添設例を示すもので、(a)はレッグ開口部Sに円弧状に添設した例、(b)は左右のレッグ開口部Sに連続するように股部RでO字状にクロスさせた例、(c)は左右のレッグ開口部Sに連続するように股部Rでクロスさせない例、(d)は左右のレッグ開口部Sに連続するように股部RでX字状にクロスさせた例である。

## 【0046】

このように外装シート16のレッグ開口部Sにレッグ用弾性部材18を添設すれば、股部Rのずれ下がり規制することも可能となり、股間全体に対する吸収体1全体の密着性が良好に維持できるので、立ち上がりフラップ5を不要にすることが可能である。

## 【0047】

図4、図5および図10の実施形態では、外装シート16の外側シート16Aと肌面側シート16Bとに、前腹部Pと後背部Qとの間の股部R両側にレッグ開口部Sとが一体に形成したものであったが、図6、図7および図11の実施形態のように構成することができる。

## 【0048】

すなわち、パンツ15は、外側シート16Aと肌面側シート16Bを前腹部Pと後背部Qに有しているが、股部Rに外装シート16を有さない構成となっている。例えば図9に示すように、吸収体1が股間に密着するための弾力のあるベルトに取付けられている。

## 【0049】

上記2枚重ねで接着する外側シート16Aと肌面側シート16Bとの間には、前後端部にウエスト用弾性部材17が伸長状態で添設されるとともに、内側端部にレッグ用弾性部材18が伸長状態で添設されている。

## 【0050】

上記吸収体1は、前腹部Pと後背部Qとに跨るようにそれぞれの肌面側シート16Bに接着されていて、吸収体1自体で股部Rとレッグ開口部Sとが形成されることになる。

**【0051】**

そして、肌面側シート16Bを内側にして外装シート16を吸収体1の股部Rで折り重ね、両サイド部16aを接合することにより、パンツ15が完成する。

**【0052】**

上記のように構成したパンツ15であっても、上記吸収体1で説明したのと同様に、股間全体に対する吸収体1全体の密着性が良好になり、体液吸収がより迅速になって横漏れするおそれが全くなくなる。

**【0053】**

図7は、前腹部Pと後背部Qの形状とレッグ用弾性部材18の添設例を示すもので、(a)は前腹部Pと後背部Qが長形状で、長さ方向に直線状でレッグ用弾性部材18を添設した例、(b)は前腹部Pと後背部Qが台形状で、台形状に沿ってレッグ用弾性部材18を添設した例、(c)は前腹部Pと後背部Qが台形状で、長さ方向に直線状でレッグ用弾性部材18を添設した例である。なお、吸収体1として、第2弾性部材10が添設されたタイプを用いれば、第2弾性部材10もレッグ用弾性部材18としての作用を果たすので有利である。

**【0054】**

図8は、図7(a)～(c)のレッグ用弾性部材18の添設例に加えて、ボディフィット用弾性部材19の添設例であって、レッグ用弾性部材18とボディフィット用弾性部材19とが吸収体1の下に殆ど無いうように添設したものである。なお、17は、ウエスト用弾性部材である。

**【0055】**

図9は、前腹部Pと後背部Qの形状とボディフィット用弾性部材19とレッグ回り弾性部材20の添設例を示すものである。

**【0056】**

前腹部Pと後背部Qとは、図9(e)に示すように、外装シート16を長さ方向に蛇行させながら2つに切り分けるとともに、この切り分けたシートを、カット線aでそれぞれカットして、このカット片の位相を半ピッチ分ずらせることにより、前腹部Pと後背部Qとを製作するものである(いわゆるSカット)。

**【0057】**

図9 (a) ~ (c) は、上記Sカットした前腹部Pと後背部Qとを使用したもので、図9 (a) は、ボディフィット用弾性部材19が吸収体1の下には無いように添設したものである。なお、17は、ウエスト用弾性部材である。

#### 【0058】

図9 (b) は、前腹部Pと後背部Qのレッグ回りフラップ部に、吸収体1の下に殆ど無いようにレッグ回り弾性部材20を添設したものである。図9 (c) は、前腹部Pと後背部Qのレッグ回りフラップ部に、吸収体1の下に殆ど無いようにレッグ回り弾性部材20を添設するとともに、吸収体1の中央部をやや細幅に形成してカーブ状のレッグギャザー21を配置したものである。

#### 【0059】

図9 (d) は、Sカット変形（位相組み合わせ無し）の前腹部Pと後背部Qのレッグ回りフラップ部に、吸収体1の下に殆ど無いようにレッグ回り弾性部材20を添設したものである。なお、吸収体1は、台形状（テーパ形状）に形成している。

#### 【0060】

図1 ~ 図11の実施形態は、吸収体1に第1弾性部材9（必要に応じて第2弾性部材10）を添設したものであったが、図12 ~ 図15に示す実施形態のように、外装シート16に第1弾性部材9（第2弾性部材10）を添設することができる。この場合には、吸収体1に第1弾性部材9（第2弾性部材10）を添設していないタイプを用いることを基本とするが、第1弾性部材9（第2弾性部材10）を添設したタイプを用いても差し支えない。

#### 【0061】

図12および図14は第1例であって、パンツ15の外装シート16は、通気性不織布で構成されて、外面側シート16Aと肌面側シート16Bとは、パンツの外形状に形成されて、前腹部Pと後背部Qとの間の股部R両側にレッグ開口部Sが形成されている。

#### 【0062】

上記2枚重ねで接着する外面側シート16Aと肌面側シート16Bとの間には、第1弾性部材9が伸長状態で添設されている。

## 【0063】

第1弾性部材9は、吸収体1の幅方向の略中央位置で、一定の間隔H1内で、所定の長さH2で近接状に延在するように左右一対で添設されて、近接部分9aを形成している。上記間隔H1としては、5～50mm程度が適当であり、上記長さH2としては、100～350mm（幼児用は50～250mm）程度が適当である。

## 【0064】

図12に示した第1弾性部材9は、近接部分9aの後端から後広がり状に後方Bに延在するように添着されて、後広がり部分9cを形成している。

## 【0065】

また、第1弾性部材9は、近接部分9aの前端から前広がりで前方Fに延在するように添着されて、前広がり部分9bが形成されても良い。この前広がり部分9bと後広がり部分9cは、略V字状であっても湾曲状であっても良い。

## 【0066】

上記吸収体1は、肌面側シート16Bの股部Rに接着されている。

## 【0067】

そして、肌面側シート16Bを内側にして外装シート16を吸収体1の股部Rで折り重ね、両サイド部16aを接合することにより、パンツ15が完成する。

## 【0068】

上記のように構成した第1例のパンツ15によれば、外装シート16の略中央位置に、近接状の第1弾性部材9を添着して近接部分9aを形成したものであるから、図3に示した吸収体1と同様に、この近接部分9aの第1弾性部材9の収縮作用によって、外装シート16の肌面側の中央部が所定の長さで盛り上がるようになり、これに伴って吸収体1の肌面側の中央部が所定の長さH2で山形に盛り上がるようになるので、吸収体1の股間中央部に対する密着性が良好になる。

## 【0069】

また、第1弾性部材9は、近接部分9aの後端から後広がり状に後方に延在するように添着して後広がり部分9cを形成したものであるから、この後広がり部分9cの第1弾性部材9の収縮作用によって、外装シート16の肌面側の後部が

後広がり状で盛り上がるようになり、これに伴って吸収体1の肌面側の後部が後広がり状で盛り上がるようになるので、股間後部（臀部の谷間）に対する密着性が良好になる。

#### 【0070】

さらに、第1弾性部材9は、近接部分9aの前端から前広がり前方に延在するように添着して前広がり部分9bを形成したものであるから、この前広がり部分9bの第1弾性部材9の収縮作用によって、外装シート16の肌面側の前部が前広がり状で盛り上がるようになり、これに伴って吸収体1の肌面側の前部が前広がり状で盛り上がるようになっても良く、股間前部に対する密着性が良好になる。この結果、股間全体に対する吸収体1全体の密着性が良好になり、体液吸収がより迅速になって横漏れするおそれが全くなくなる。

#### 【0071】

図13および図15は第2例であって、パンツ15の外装シート16は、通気性不織布で構成されて、外面側シート16Aと肌面側シート16Bとは、パンツの外形状に形成されて、前腹部Pと後背部Qとの間の股部R両側にレッグ開口部Sが形成されている。

#### 【0072】

上記2枚重ねで接着する外面側シート16Aと肌面側シート16Bの間には、第1弾性部材9が伸長状態で添設されている。

#### 【0073】

第1弾性部材9は、吸収体1の幅方向の略中央位置でクロスするとともに、所定の長さH2で略直線状に延在するように左右一対が対称で添設されて、近接部分9aを形成している。上記長さH2としては、100～350mm（幼児用は50～250mm）程度が適当である。

#### 【0074】

また、各第1弾性部材9は、近接部分9aの前端から前広がり状に前方Fに延在するように添着されて、前広がり部分9bを形成するとともに、近接部分9aの後端から後広がり状に後方Bに延在するように添着されて、後広がり部分9cを形成している。



**【0075】**

上記吸収体1は、肌面側シート16Bの股部Rに接着されている。

**【0076】**

そして、肌面側シート16Bを内側にして外装シート16を吸収体1の股部Rで折り重ね、両サイド部16aを接合することにより、パンツ15が完成する。

**【0077】**

上記のように構成した第2例のパンツ15でも、図12および図14の第1例のパンツ15と同様に、股間全体に対する吸収体1全体の密着性が良好になり、体液吸収がより迅速になって横漏れするおそれが全くなくなる。

**【0078】**

上記第2例のパンツ15では、前腹部Pおよび後背部Qとレッグ開口部Sに沿った第1弾性部材9の前広がり状部分9bと後広がり状部分9cの一部がウエスト用弾性部材およびレッグ用弾性部材の一部として機能することになる。

**【0079】****【発明の効果】**

以上の説明からも明らかなように、請求項1の発明は、吸収体の裏面側の略中央位置に、略直線状の第1弾性部材を添着することにより、この第1弾性部材の収縮作用によって、吸収体の肌面側の中央部が所定の長さで盛り上がるようになるから、吸収体の股間中央部に対する密着性が良好になるので、体液吸収が迅速になって横漏れするおそれがなくなる。

**【0080】**

また、第1弾性部材は、直線近接部分の前端から前広がり状に前方に延在するように添着すると（請求項2）、前広がり状の第1弾性部材の収縮作用によって、吸収体の肌面側の前部が前広がり状で盛り上がるようになるから、股間前部に対する密着性が良好になる。

**【0081】**

さらに、第1弾性部材は、直線近接部分の後端から後広がり状に後方に延在するように添着すると（請求項3）、後広がり状の第1弾性部材の収縮作用によって、吸収体の肌面側の後部が後広がり状で盛り上がるようになるから、股間後部

(臀部) に対する密着性が良好になる。特に請求項 2 と 3 の構成を併用すると、股間全体に対する吸収体全体の密着性が良好になり、体液吸収がより迅速になって横漏れするおそれが全くなくなる。

#### 【0082】

また、吸収体の裏面側における幅方向の両側位置に、所定の長さで略直線状に延在する第 2 弾性部材を添着すると（請求項 4）、第 1、第 2 弾性部材の相互収縮作用によって、吸収体の肌面側の中央部が所定の長さでより高く盛り上がるようになるから、股間中央部に対する密着性がより良好になる。

#### 【0083】

さらに、吸収体は、バックシートとトップシートと吸収性コアとを有して、第 1 部材または／および第 2 弾性部材は、2 枚重ねのバックシートの間に添設すると（請求項 5）、ラインによる生産が容易に行える。

#### 【0084】

さらにまた、吸収体の両側に立ち上がりフラップを設けると（請求項 6）、吸収体の両側からの横漏れを確実に防止することができる。

#### 【0085】

また、前腹部と後背部との間の股部両側にレッグ用開口部を形成した外装シートを設け、吸収体は、外装シートの肌面側の股部に取付けると（請求項 7）と、使い捨てパンツタイプとすることができる。

#### 【0086】

請求項 8 の発明は、使い捨てパンツタイプの外装シートの略中央位置に、略直線状の第 1 弾性部材を添着することにより、この第 1 弾性部材の収縮作用によって、外装シートの肌面側の中央部が所定の長さで盛り上がるようになり、これに伴って吸収体の肌面側の中央部も所定の長さで盛り上がるようになるから、吸収体の股間中央部に対する密着性が良好になるので、体液吸収が迅速になって横漏れするおそれがなくなる。

#### 【0087】

また、第 1 弾性部材は、直線近接部分の前端から前広がり状に前方に延在するように添着すると（請求項 9）、前広がり状の第 1 弾性部材の収縮作用によって

、外装シートの肌面側の前部が前広がり状で盛り上がるようになり、これに伴って吸収体の肌面側の前部が前広がり状で盛り上がるようになるから、股間前部に対する密着性が良好になる。

#### 【0088】

さらに、第1弾性部材は、直線近接部分の後端から後広がり状に後方に延在するように添着すると（請求項10）、後広がり状の第1弾性部材の収縮作用によって、外装シートの肌面側の後部が後広がり状で盛り上がるようになり、これに伴って吸収体の肌面側の後部が後広がり状で盛り上がるようになるから、股間後部（臀部）に対する密着性が良好になる。特に請求項9と10の構成を併用すると、股間全体に対する吸収体全体の密着性が良好になり、体液吸収がより迅速になって横漏れするおそれが全くなくなる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】 吸収体の分解斜視図である。

【図2】 (a) は第1弾性部材を有する吸収体の斜視図、(b) は(a) の平面図、(c) は第1、第2弾性部材を有する吸収体の斜視図、(d) は(c) の平面図である。

【図3】 吸収体であり、(a) は吸収体を伸長させた状態の平面状態の斜視図、(b) は立体状態の斜視図である。

【図4】 使い捨てパンツの分解斜視図である。

【図5】 (a) ～ (d) は、それぞれレッグ用弾性部材の添設例を示す平面図である。

【図6】 使い捨てパンツの分解斜視図である。

【図7】 (a) ～ (c) は、それぞれレッグ用弾性部材の添設例を示す平面図である。

【図8】 (a) ～ (c) は、それぞれレッグ用弾性部材とボディフィット用弾性部材19の添設例示す平面図である。

【図9】 (a) ～ (d) は、それぞれ前腹部と後背部の形状とボディフィット用弾性部材とレッグ回り弾性部材の添設例を示す平面図、(e) はSカットの要領を示す平面図である。

【図10】 図4の使い捨てパンツであり、(a)は前面側斜視図、(b)は背面側斜視図、(c)は要部断面図である。

【図11】 図6の使い捨てパンツであり、(a)は前面側斜視図、(b)は背面側斜視図、(c)は要部断面図である。

【図12】 第1例の使い捨てパンツの分解斜視図である。

【図13】 第2例の使い捨てパンツの分解斜視図である。

【図14】 図12の使い捨てパンツであり、(a)は前面側斜視図、(b)は背面側斜視図、(c)は要部断面図である。

【図15】 図13の使い捨てパンツであり、(a)は前面側斜視図、(b)は背面側斜視図、(c)は要部断面図である。

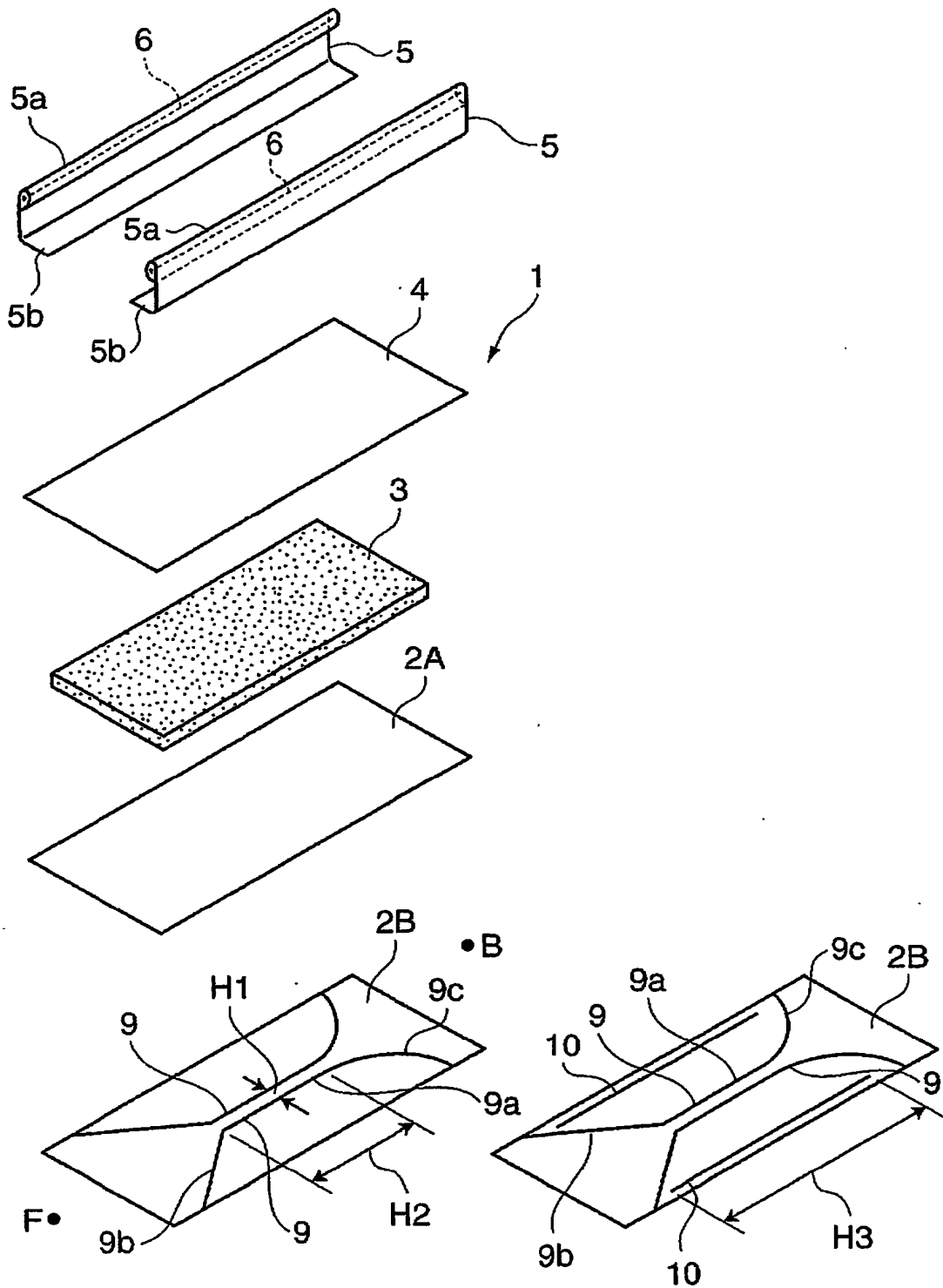
【符号の説明】

- 1 吸収体
- 2 (A, B) バックシート
- 3 吸収性コア
- 4 トップシート
- 5 立ち上がりフラップ
- 6 フラップ用弾性部材
- 9 第1弾性部材
- 9 a 近接部分
- 9 b 前広がり部分
- 9 c 後広がり部分
- 10 第2弾性部材
- 15 使い捨てパンツ
- 16 外装シート
- 16 A 外面側シート
- 16 B 肌面側シート
- 17 ウエスト用弾性部材
- 18 レッグ用弾性部材
- 19 ボディフィット用弾性部材

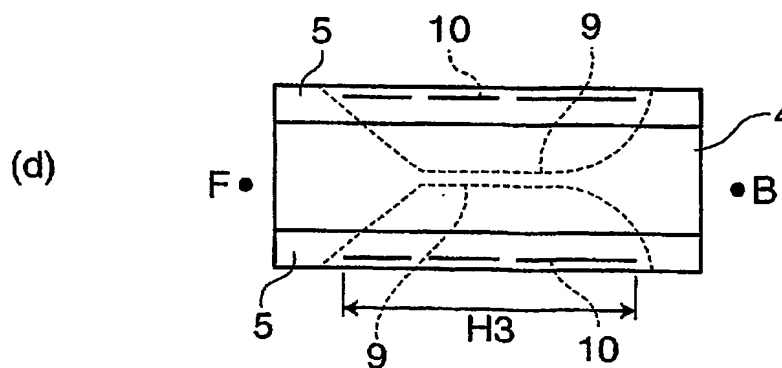
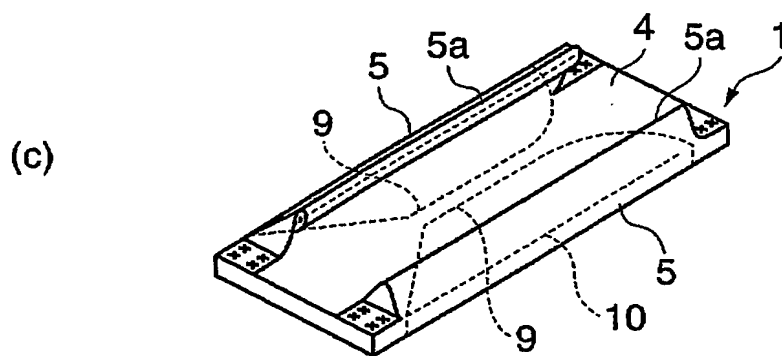
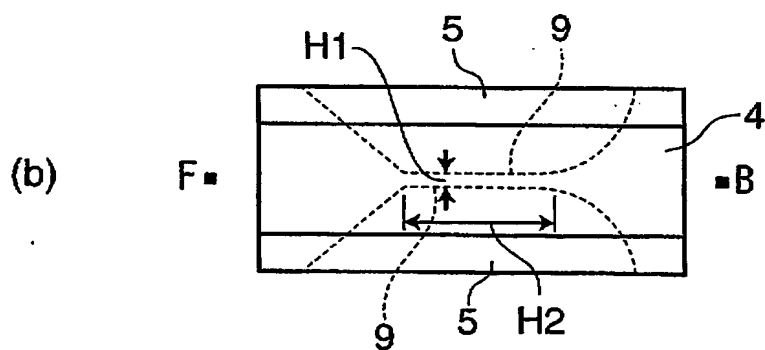
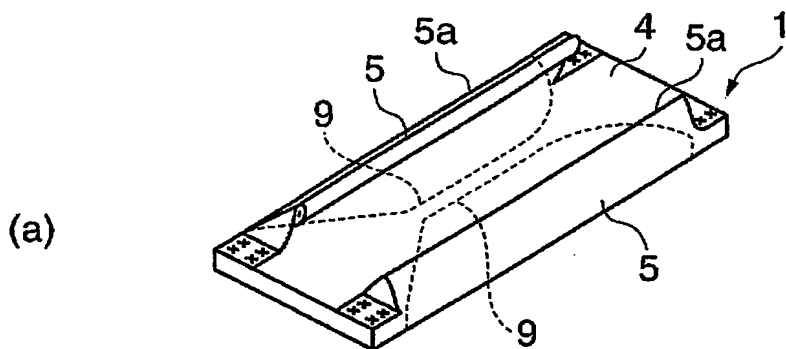
H 1 間隔  
H 2 長さ  
H 3 長さ  
P 前腹部  
Q 後背部  
R 股部  
S レッグ開口部

【書類名】 図面

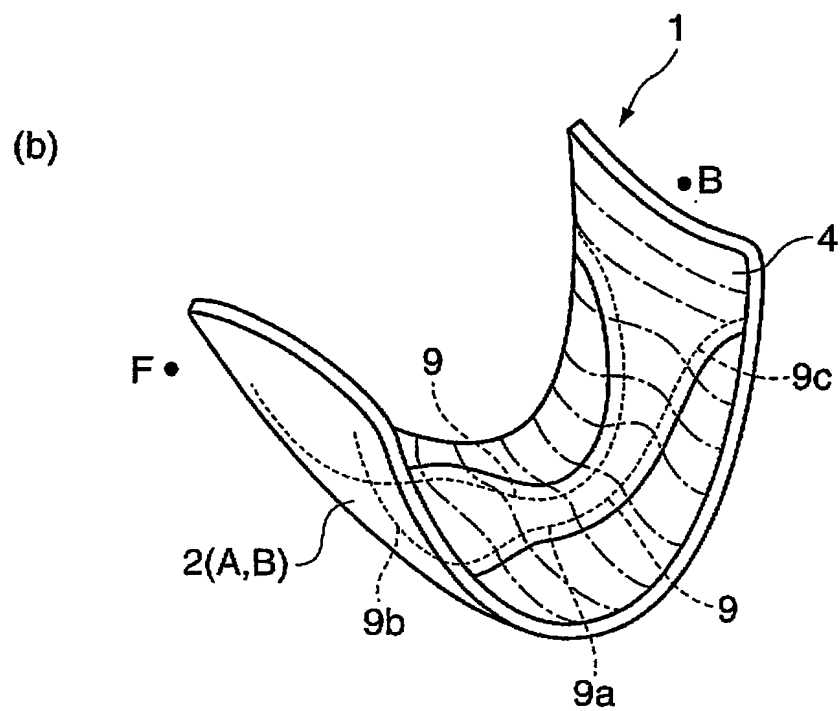
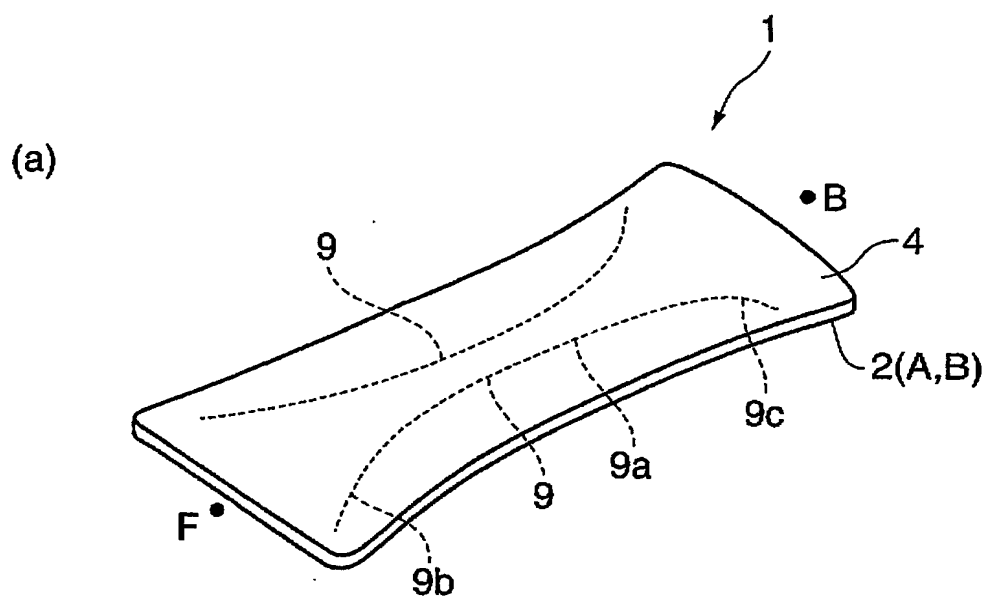
【図1】



【図2】

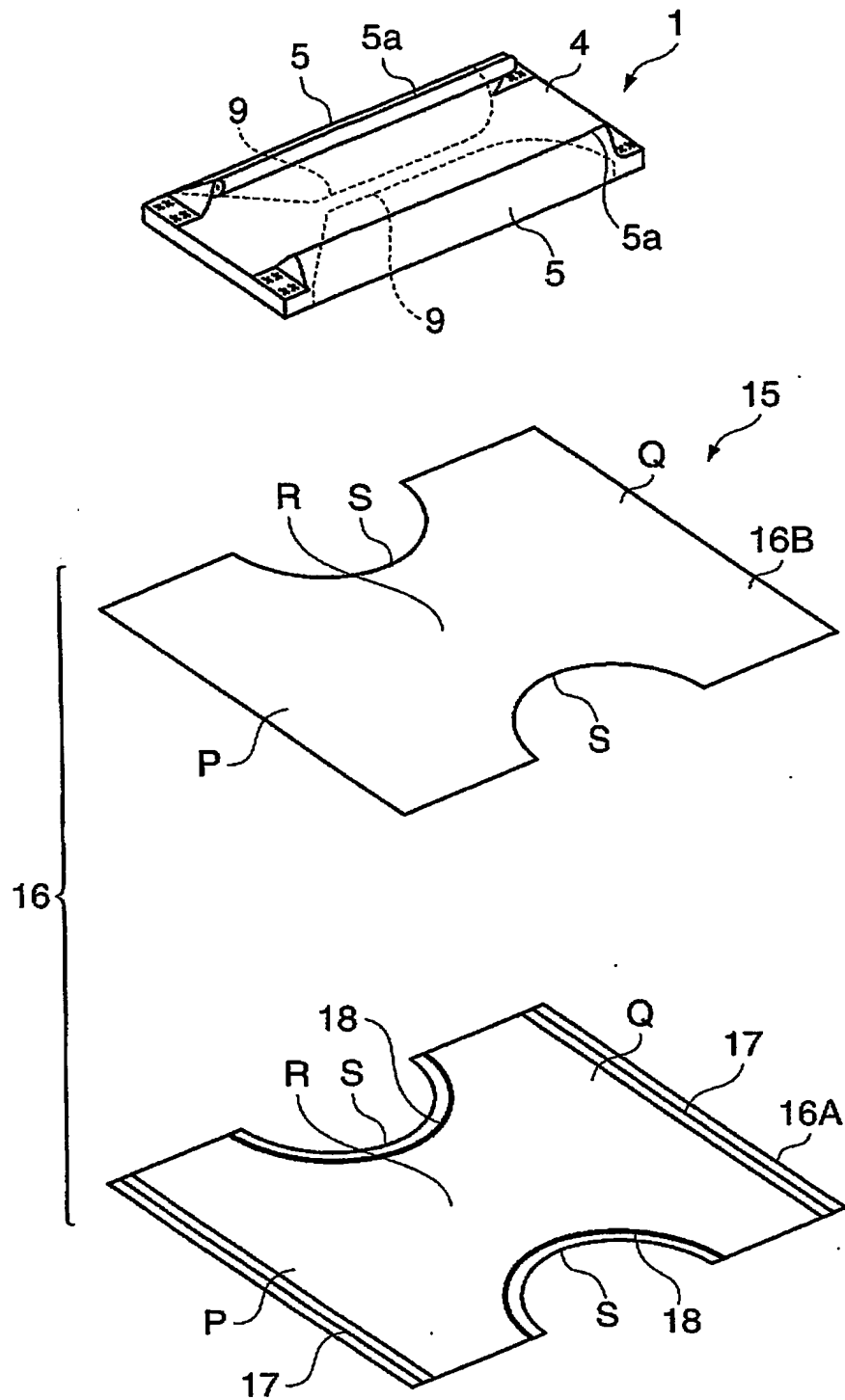


【図3】

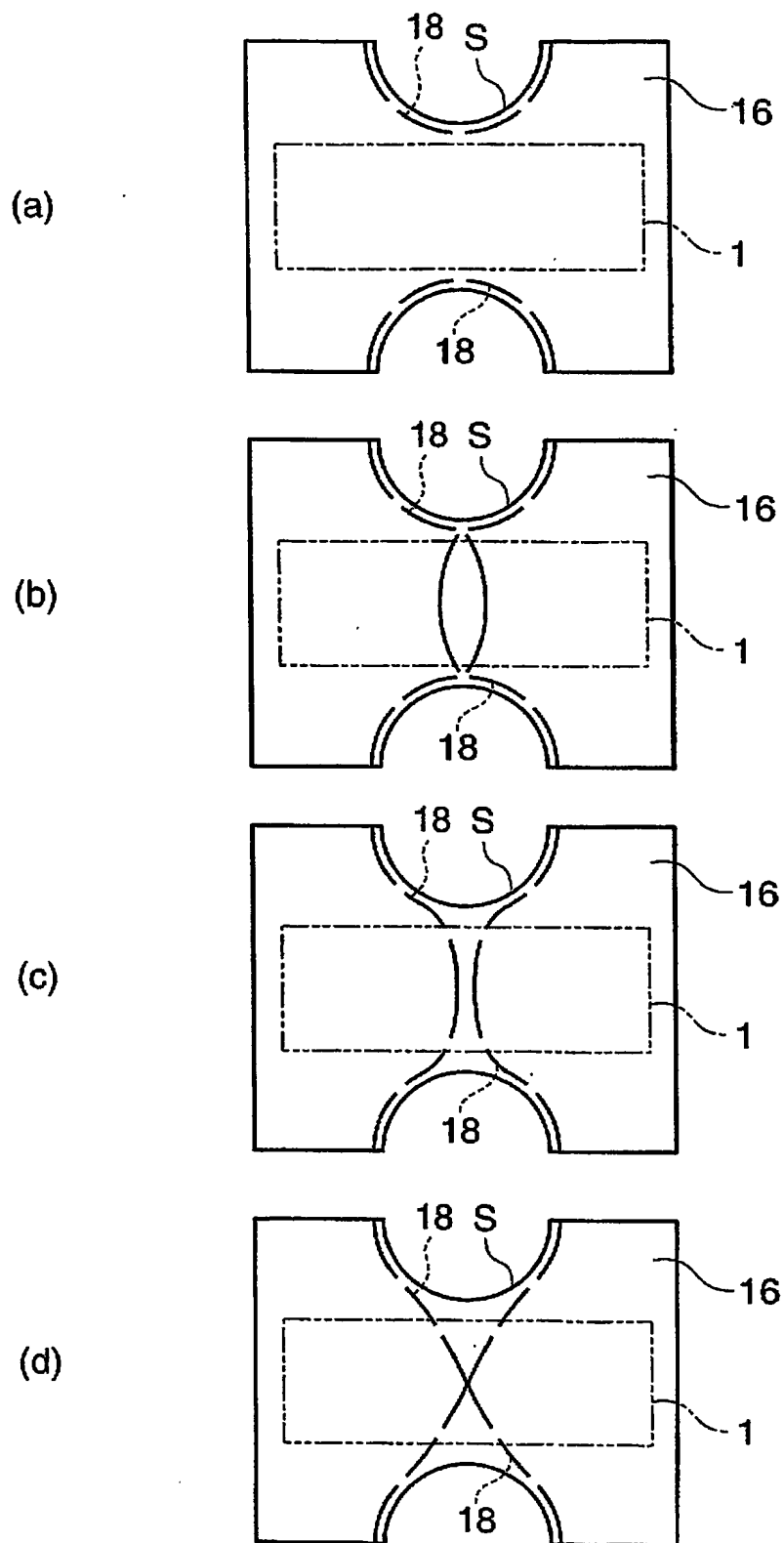




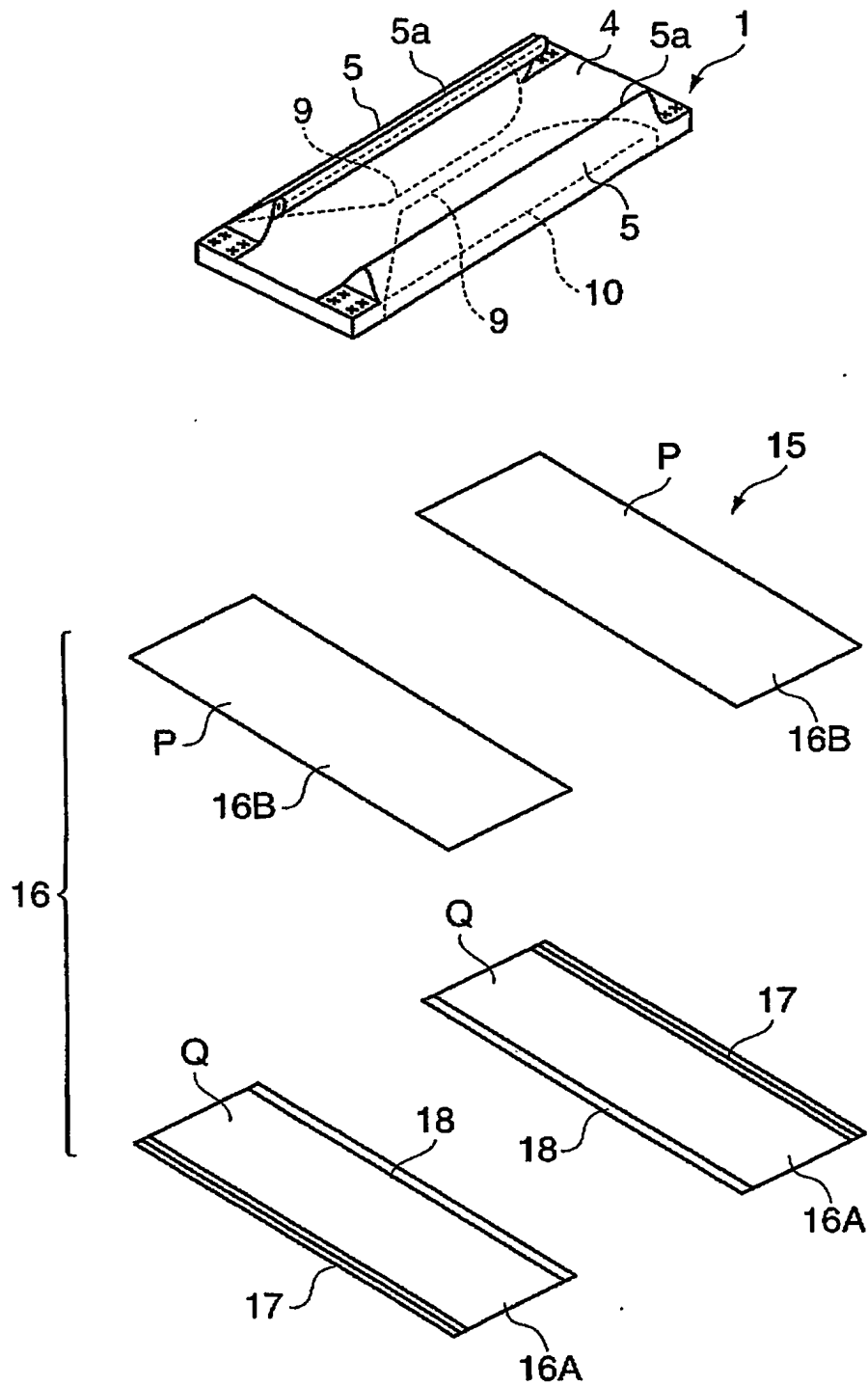
【図4】



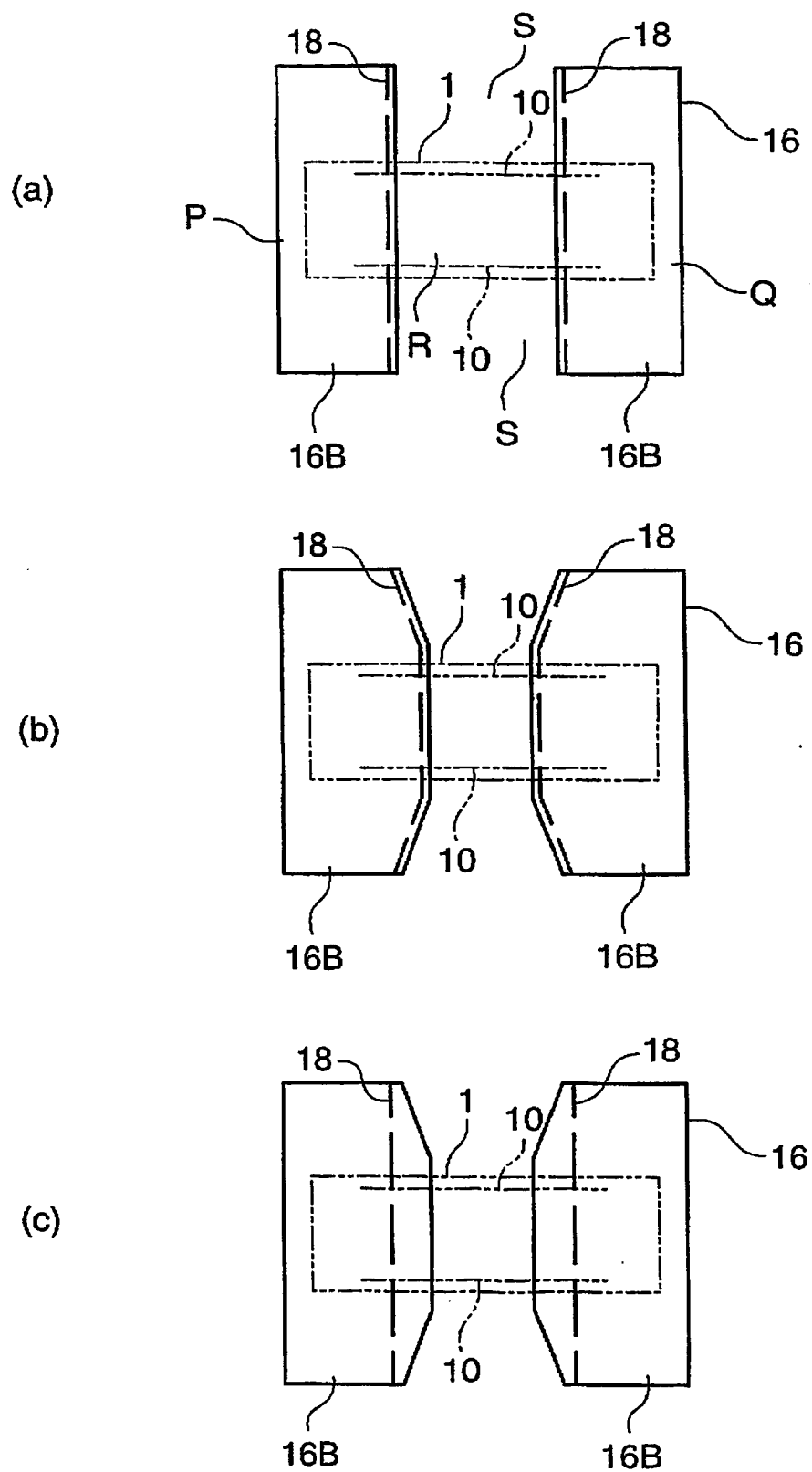
【図5】



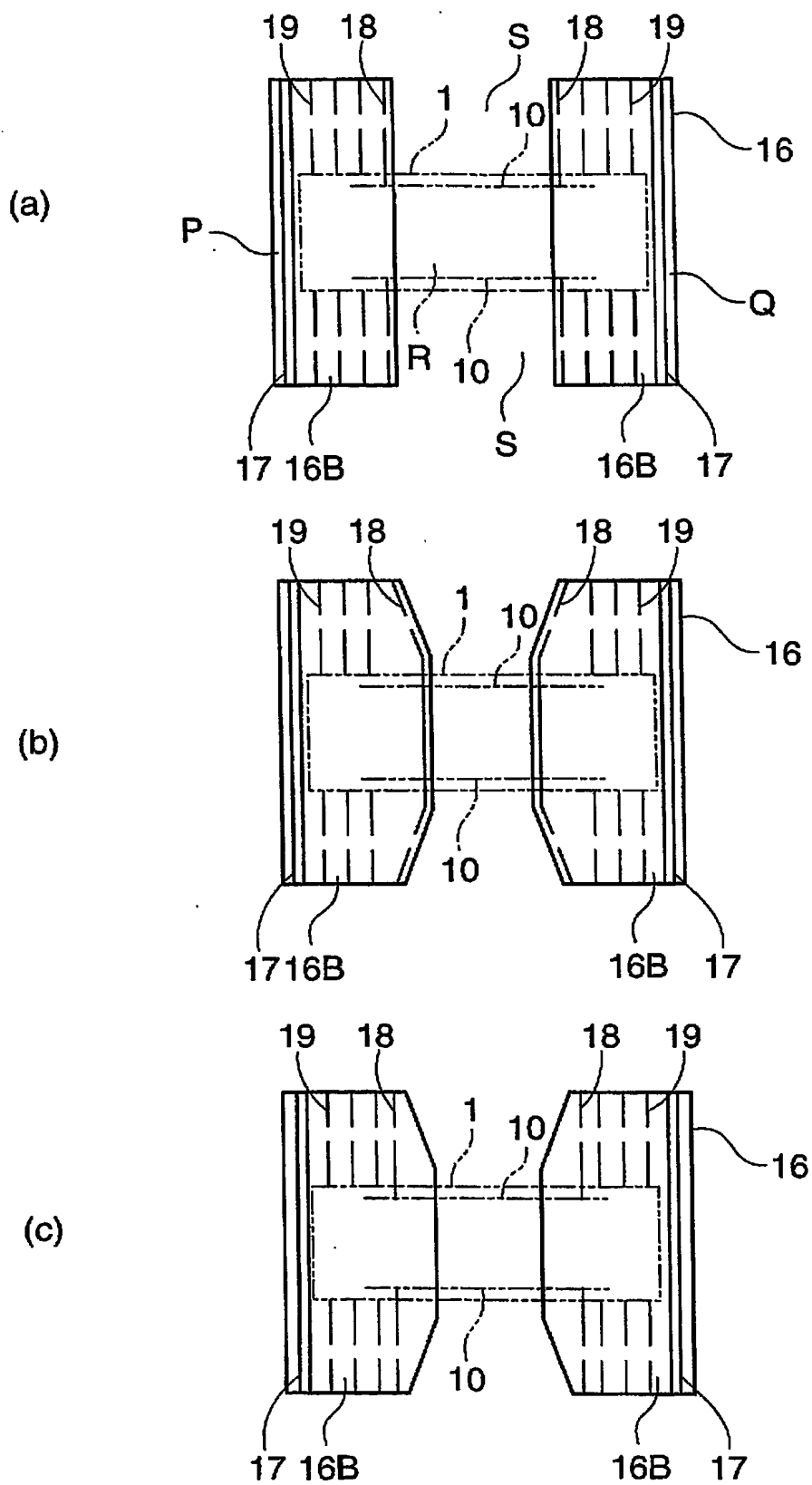
【図6】



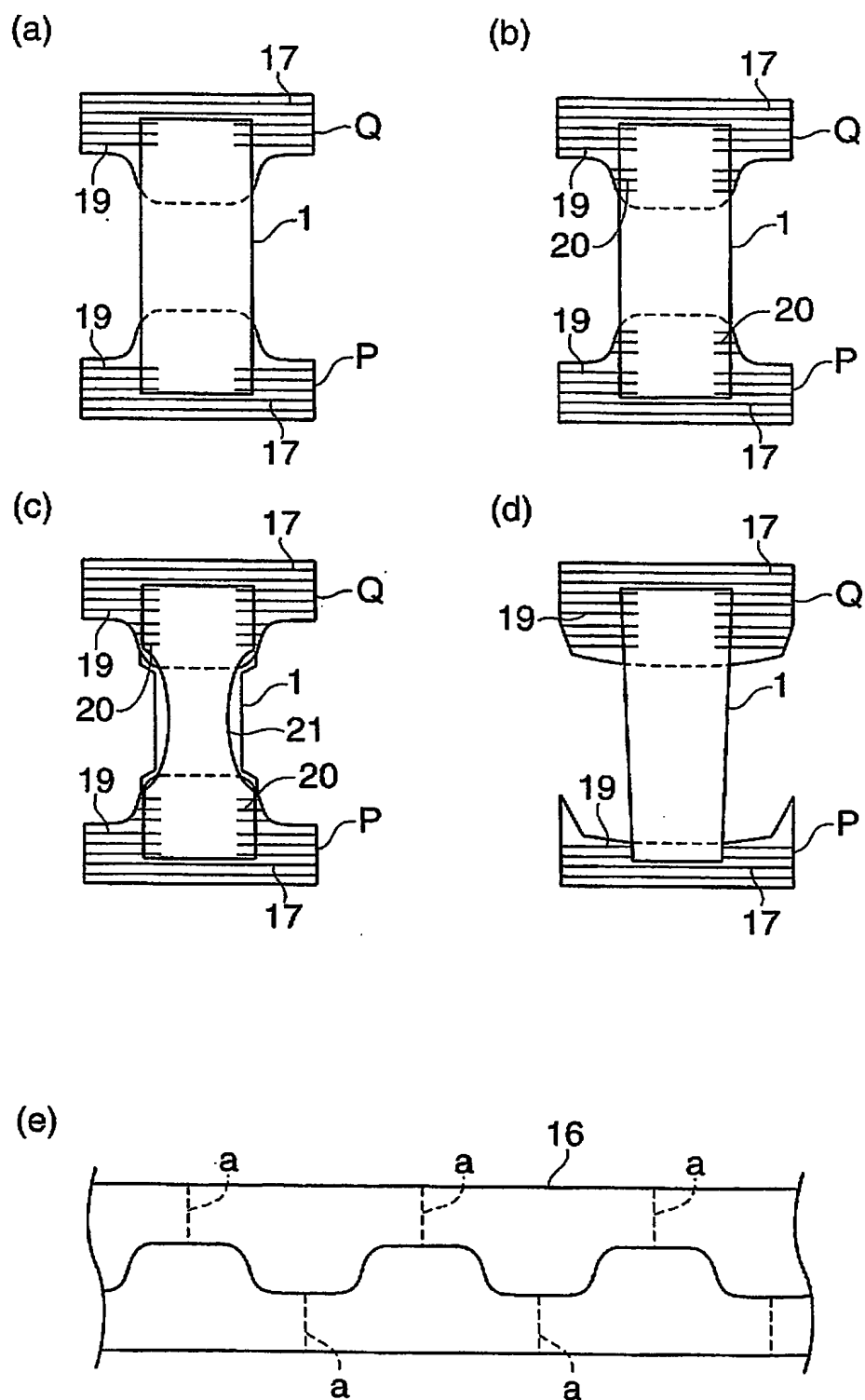
【図7】



【図 8】

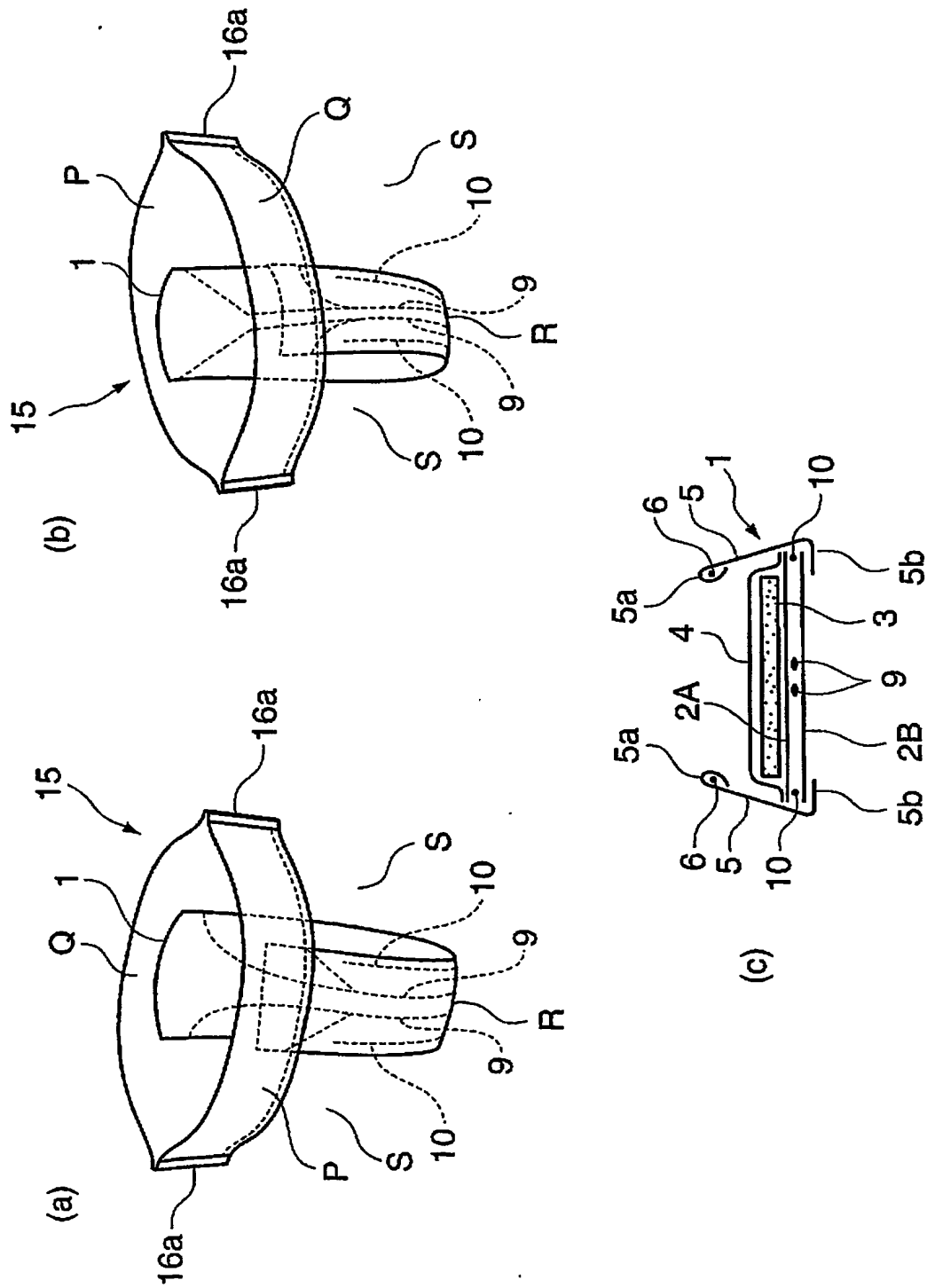


【図 9】





【図11】



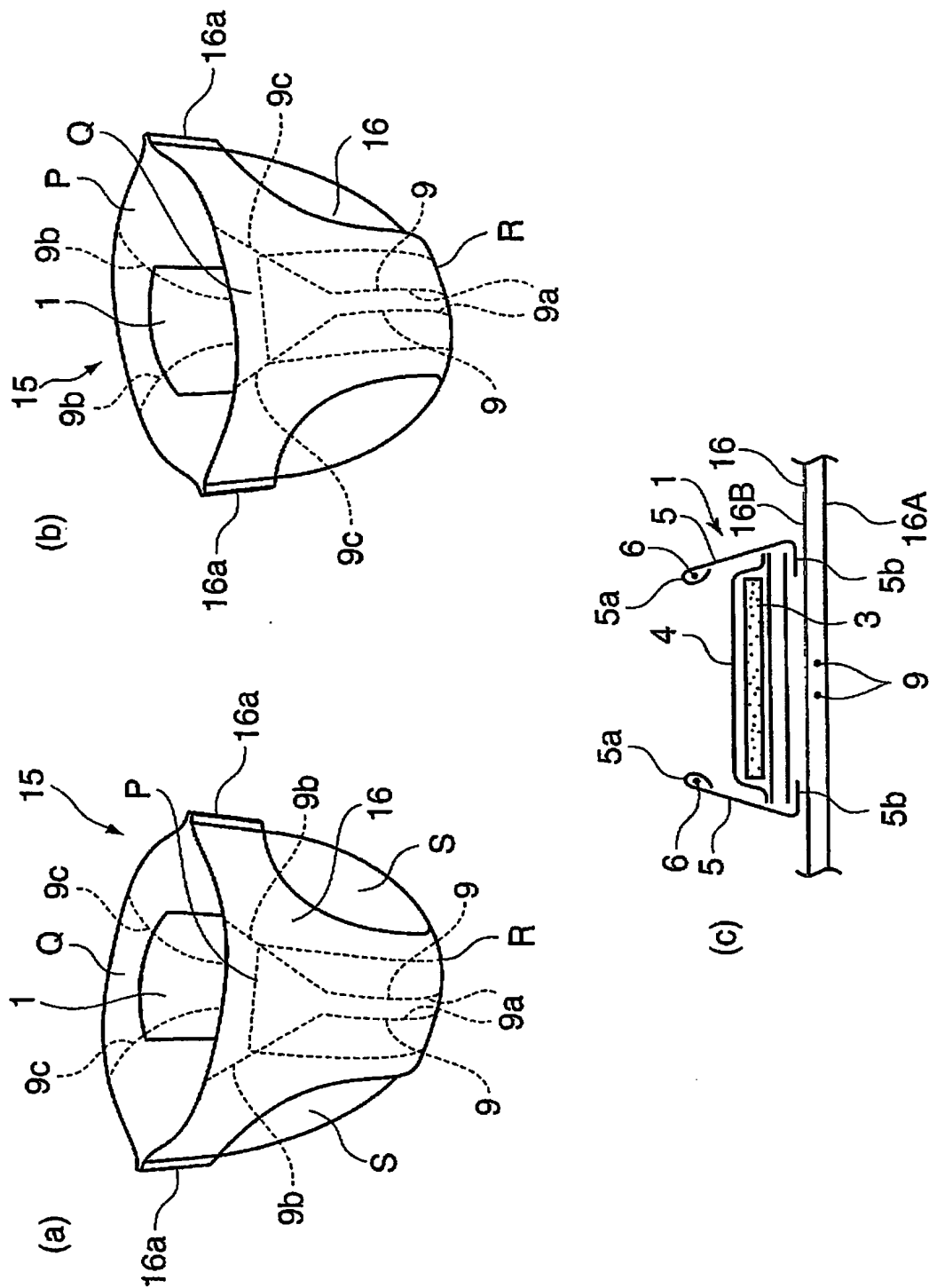




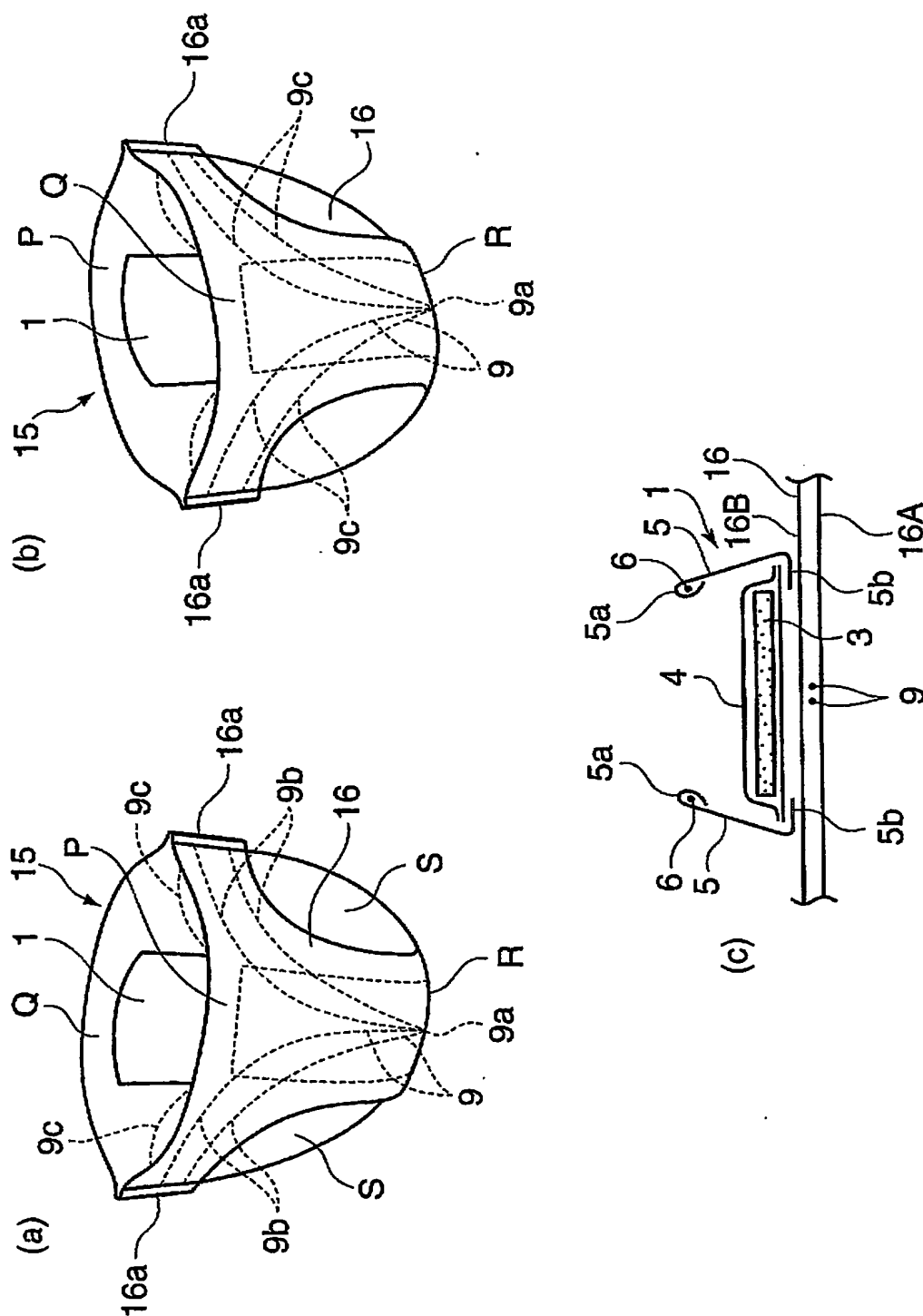
مجلس



【図14】



【図15】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 股間全体に対する吸収体全体の密着性を良好にする。

【解決手段】 吸収体1の裏面側の略中央位置に、略直線状の第1弾性部材9を添着するとともに、第1弾性部材9の直線近接部分9aの前端から前広がり状に前方に延在するように前広がり部分9bを添着するとともに、直線近接部分9aの後端から後広がり状に後方に延在するように後広がり状部分9cを添着することにより、第1弾性部材9の収縮作用によって、吸収体1の股間中央部、前部および後部に対する密着性が良好になって、股間全体に対する吸収体1全体の密着性が良好になる。

【選択図】 図1

特願 2002-307888

出願人履歴情報

識別番号

[591040708]

1. 変更年月日

1990年12月20日

[変更理由]

新規登録

住所

大阪府摂津市南別府町15番21号

氏名

株式会社瑞光

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ **BLACK BORDERS**
- ☒ **IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- ☐ **FADED TEXT OR DRAWING**
- ☐ **BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- ☐ **SKEWED/SLANTED IMAGES**
- ☐ **COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- ☒ **GRAY SCALE DOCUMENTS**
- ☐ **LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- ☒ **REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- ☐ **OTHER:** \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**